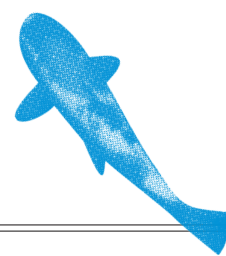


sento &
neighborhood
journal

OTAMAYU

せんとうと
まち新聞北区の
記憶あつめ編
Vol.11
お玉湯

ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全22軒(令和6年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有することで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS お玉湯紹介/記憶地図/住民かく語りき



安岡さんが幼い頃、父と姉と一緒に銭湯で撮った家族写真。

環八通りの開通で、昔ながらの宮造り建築だったのが、環八通りの開通工事にあたり、1992年に2車線分の後退を余儀なくされ、現在の場所に新たに建て直したという。昔は今の環八通り沿いが商店街になっていたし、周囲には大小さまざまな工場があった。そのため、仕事帰りの職工さんたちがよく風呂に入りに来ていた」と安岡さんは振り返る。

環八通りが開通してからは住宅の高層化が進み、商店や工場は激減。今ではほとんどがマンションに姿を変えてしまっているが、お玉湯は今もなお風呂を沸かし続けている。「父の代の頃から外で働きたが、お玉湯を手伝ってきた。母が7年前、父が5年前に他界し、営業を続

けるかどうか迷ったが、周囲の後押しもあって続けることにした」と安岡さん。聞けば、今も保険代理店で働きながら、奥さんと二人三脚で銭湯を切り盛りしているそうだ。「掃除は常に先代がしていたから、自分もそれにならって、どんなにきつくともやるようにしている」というから驚きだ。

環八通りの開通で
1992年に建て直し荒川に近い立地を生かし
常連とランナーに
愛され続ける銭湯

隅々まで清掃が行き届いて心地よい洗い場。

積極的な営業活動で
ランナーのニーズに対応

ただ、その一方で「父の代からの常連さんたちもだいたいなくなってきた。風呂なしアパートのオーナーさんからは『まだやめないでね』と言われるけど」と安岡さんは苦笑する。

しかし、そうしたなかにあっても安岡さんはめげずに、持ち前のバイタリティーで独自の営業戦略を打ち出している。その軸にあるのがマラソンだ。『月例赤羽マラソン』(毎月第4日曜日に開催)をはじめとしたマラソンイベントのスタートやゴールの地点が近所(荒川沿い)なので、イベント後に多くのランナーたちがひとと風呂浴びに来てくれるようになった」と安岡さんは笑顔をみせる。

むしろ、ただ座して待っていたわけではない。「主催者に掛け合って、ランナーの皆さんにチラシを配らせてもらったり、ゴ



事前予約で更衣室とロッカーが使える。走り終わった後、すぐに入浴できるのが嬉しい。

ル地点に看板を出し、営業をさせてもらったりした。おかげで、少しずつランナーの皆さんの間で知名度が高まり、『マラソンイベントの後はお玉湯』という流れをつくることのできた」とうた。

現に「マラソン大会の規模が大きい時は数千人の参加者がいるし、『月例赤羽マラソン』にも毎回200人前後が参加する。そのため、イベント当日はいつも大忙しだが、その分だけ張り合いがある」と安岡さんは話す。

また、最近では混雑を緩和するため、予約サイトを立ち上げたり、あらかじめロッカーをキープできるサービスを提供したりと、ランナー向けのサービスを拡充。そのかいもあってか、イベント時のみならず、通常営業時にも練習帰りのランナーが立ち寄ることが増えたという。

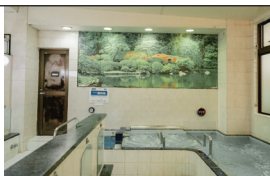
もちろん、ランナーや地元の方々の常連たちを癒す「湯」にもお玉湯ならではの「特徴」がある。「昔から使っている井戸水が健在で、老若男女を問わず、多くのお客さんに喜んで使ってもらっている。かつて近所にあった小山酒造の仕込み水と近い水脈から汲み上げているから、水質がきつと良いのだと思う」と安岡さん。

荒川に近いという立地やたぐいまれな水質を生かし、前向きに未来を切り拓こうとしている、たくましい銭湯である。

(マラソン時の特別営業時間は赤羽マラソン公式サイトにて告知。ロッカー予約は東京銭湯マップのサイトからもご覧いただけます)

せんとう情報 SENTO DATA

お玉湯

お玉湯 東京都北区赤羽北1-25-13 JR埼京線「北赤羽駅」、東京メトロ南北線「赤羽岩淵駅」徒歩7分
15:45-23:00 定休日:月・水曜(月曜祝日の場合は火曜休み)

フロント 薬湯 水風呂 荷物一時預かり Wi-Fi(無料) ランドリー

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

● 現在も営業中 ● 閉店

記憶地図

お玉湯編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう！

お玉湯

荒川のすぐ近くにあるお玉湯。写真は建て替え前の宮造り建築だった頃のもの。かつては線香やピアノの工場が近くにあり、工場で働く人やその家族がよく入浴に来るため、チケットで精算することが多かったという。



提供: 安岡誠司

お玉湯では
熱帯魚のパロッドファイヤーが
お出迎えしてくれる



釣り堀

室内に釣り堀があり、子どもたちの遊び場になっていた。

大衆食堂

藤パン屋

Brat Style

米屋 ● 薬屋

肉屋

床屋

パン屋

寿司、ラーメン、駄菓子

中華屋

酒屋

豆腐屋

町田マーケット

こうか飯店

蕎麦屋

ファッション
クリーニング石塚

細やかな配慮と信頼できる技術が光る老舗クリーニング店。自家洗いの丁寧な手仕上げが嬉しい。環八通りの拡張などの影響を受けて3度の移転があったものの、1960年頃から約60年余りこの地域で営業を続けている。



環八通り

環八通り

環八通り整備前の道と建て替え前のお玉湯の様子。かつては道幅が狭く気軽に行き来ができた。



提供: 安岡誠司

お祭り

かつてここには広場があり、地域のお祭りや盆踊りを行っていたという。



提供: 安岡誠司

住民かく語りき

お玉湯周辺



Photo / Mari Okamoto

9月30日、記憶集めトークイベントが実施された。これはお玉湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

イベントがはじまると、常連の昔話に一気に花が咲いた。特にかつてのお玉湯に思いを馳せる常連が多く、「建て替える前は湯船がものすごく広くて、子どもがたくさん来ていた」「庭があって、紅葉や池を見ながら風呂に入れた」「子どもが小さい時は銭湯に通うのも大変だったけれど、女中さんたちが丁寧に世話をしてくれるので助かった」。

「当時はまだ商店街があって、風呂上りに鮮魚店や精肉店、豆腐屋、乾物屋などで買い物をしてきた」といった声が上がった。

また、先代夫婦への感謝の声も多く、「先代のお母さんは本当に良い人で、風呂上がりに夕飯のおかずの話などをしてくれるのが楽しかった」といった話も。もっとも、人柄という点では現店主夫妻も負けず劣らずの人氣ぶりだ。「ふたりの人柄が良いおかげで、お風呂に入っても心地悪くはないし、今も親しい人たちと背中を洗って話をすることが多い。風呂場の雰囲気が良い」「店主の人柄が好きで、浮間からわざわざ通い続けている」と話す常連もいた。

おかげで、地域におけるお玉湯の存在は今も大きく、「昔は家に風呂がないから入りに来ていたけれど、今はおしゃべりが楽しくて通っている。家に風呂があっても、ここに来て話すのが一日の楽しみになっている」といった声も上がった。

どんなに施設や周辺環境が変わっても、愛される人柄と場所は変わらない。そんなことを実感させられるトークイベントだった。次回も参加者とともに、多くの記憶を集めていきたい。

お玉湯に
遊びに来てね！

COMMENT

周辺環境の変化にめげず
二足の草鞋を履き続けたい!!
— 安岡誠司さん(お玉湯2代目店主)

環八通りが開通する前にあった商店街には、いろんな店舗が軒を連ねていました。なかでも珍しかったのが室内型の釣り堀で、私も子どもの頃に金魚釣りをして遊んでいました。

当時はお玉湯も毎日大忙しで、北陸地方から来た従業員を雇っていましたが、番頭さん、三助さん、女中さんは住み込みで働いていて、ご飯と一緒に食べたりしていました。父は福井県がルーツなんですけど、住み込みの方たちは母の故郷の石川県の方が多かったように思います。環八通りが開通し、周囲の工場がなくなって、大型スーパーができてから、今のようになると10年も前からなってきたかな。行き来できないガードレールが設置され、住宅の高層化が進むようになってからは客足が減り、地域の銭湯もどんどんなくなっていました。そういうなかでも、ちょっとはなれた地域から通い続けてくれるお客さんが増えて、本館にあらがたにかぎりです。なかには「家からここまで行く来とこのお風呂のおかげで元気になる」と言ってくれる方もいて、励みになります。

もっとも、銭湯を維持し続けるのはなかなか大変で、ボイラーを交換するだけで数千万円の出費が必要だったり、昨今のガス料金の高騰の影響もかなり大きかったです。そして、保険代理店との二足の草鞋を履き続けるのは身体的にもきつる時があるのですが、通い続けてくれる先輩方を見習って、まだまだ元気に頑張っていきたいと思っています。

わたしのせんととうまち

— 北区の記憶あつめVol.11 お玉湯 —

活動支援の協賛・寄付を
募集しています
https://bio.site/sentotomachi



発行：一般社団法人 せんととうまち

制作統括：一般社団法人 せんととうまち 栗生はるか 事務局：渡邊勢士 編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社 PIN DESIGN 菅原悠介/岡本茉莉

協力：東京都北区浴場組合

北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シティプランニング戦略課)にて制作。

一般社団法人せんととうまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。